

# 「大気環境学会誌」投稿規程

2021年1月10日

## 1. 総則

- (1) 本誌は大気環境に関連した諸分野の独創的な研究で、価値ある事実または結論を含む研究論文のほか、会員のために必要なそのほかの記事を掲載する。
- (2) 本誌に掲載された記事の著作権は公益社団法人大気環境学会に帰属する。
- (3) 英文による投稿も受け付けるが、Asian Journal of Atmospheric Environmentへの投稿を推奨する。

## 2. 原稿の種類

### (1) 研究論文

研究論文は、原著論文、ノート、速報および技術調査報告の4種類とし、いずれも他誌に未発表のものに限る。なお、主著者が博士号未取得の学生もしくは若手研究者であり、かつ、学生・若手研究者論文としての審査(本投稿規定4.(3)を参照)を希望する場合は、原著論文、ノート、技術調査報告のいずれかとする。

#### 1) 原著論文

独創的な研究で、新しい知見、価値ある結論あるいは事実を含むもの。

#### 2) ノート

断片的ではあるが、新しい事実や価値ある結論あるいは事実を含む簡潔な報告。

#### 3) 速報

原著論文に準ずる内容を持ち、特に速やかに発表する必要のあるもの。

#### 4) 技術調査報告

大気環境研究に関する測定技術、調査結果など、その知見が大気環境に関する研究として貢献すると判断されるもの。

### (2) 総説

大気環境の諸分野の研究に関連して、その分野の進歩の状況、現状、将来への展望などをまとめたもの。

#### 1) 投稿によるもの

総説として投稿されたもの。

#### 2) 執筆依頼によるもの

大気環境学会賞(学術賞、進歩賞)受賞者に対して受賞の対象となった研究の現状、将来への展望などについて編集委員会が執筆を依頼したもの。

### (3) 解説

大気環境の諸分野における最新の調査結果、興味深い話題などについて専門外の人でも理解できるように解説を加えたもの。編集委員会からの依頼原稿を原則とする。

### (4) 入門講座

大気環境の諸分野において確立した手法あるいは大気環境関連の研究を進めるうえで必要な技術、手法について、初心者でも分かるように記述したもの。編集委員会からの依頼原稿を原則とする。

### (5) 資料

大気環境の諸分野の研究に関連した実験データ、観測データ、文献調査結果や委員会報告書などで、大気環境研究上および本会として記録する価値のあるもの。

### (6) 論壇

大気環境に関する研究に関連して、いまだ一般的でないが、会員にとって意見交換を行うに足る主張や既発表論文に対する質疑、意見などをとりまとめたもの。

### (7) その他

会員相互の交流に関する意見、ニュース、書評や掲載された記事などに対する訂正や意見、そのほか本会に関するもの。

## 3. 投稿

(1) 投稿原稿の主著者は、投稿時に会員であること。

(2) 投稿原稿は、所定のテンプレートを使用し、本投稿規程ならびに「投稿の手引」にしたがって指定の構成と書式により作成すること。

(3) 投稿原稿の長さは、原則として、表1に示すページ数、文字数、語数以内とする。なお、文字数2,700で刷り上がり1ページに相当する。

(4) すべての原稿は、投稿前に全著者に投稿について承諾を得ること。

(5) 投稿は、電子投稿システムを使用する。なお、以降はすべて電子投稿システムおよび電子メールの使用を前提とするが、不都合がある場合は投稿前に編集委員会にその旨を伝えること。

(6) 投稿時には、必要事項を記入した本会所定の投稿カードを提出すること。投稿カードの記載事項やチェックリストを確認し、投稿に不備のないことを確認すること。なお、明らかな分野違いや書類・内容に不備のある場合は受け付けないことがある。

表1 刷り上り最大ページ数、文字数、語数

原稿の種類	原稿全体 (ページ数)	和文要旨 (文字数)	英文要旨 (語数)
原著論文	8	600	200
ノート	6	500	200
速報	4	300	200
技術調査報告	8	600	200
総説	8	600	200
解説	8	—	—
入門講座	8	—	—
資料	8	—	—
論壇	2	—	—
その他	2	—	—

※文字数2,700で刷り上がり1ページに相当。

#### 4. 審査

- (1) 投稿論文審査手順を図1、審査判定後の手順を図2に示す。
- (2) 投稿原稿は、2名(速報は1名)以上の査読委員によって審査され、採否は編集委員長、副編集委員長、担当編集委員の合議により決定される。審査結果については3か月以内(速報は1か月以内)を目途に連絡著者に回答する。
- (3) 主著者が博士号未取得の学生もしくは若手研究者の場合、著者は学生・若手研究者論文としての審査を希望することができる。学生・若手研究者論文の審査体制、採否の基準および方法は一般の投稿と同じであるが、より丁寧で具体的な修正意見を提示する。審査結果については1か月以内を目途に主著者に回答する。
- (4) 著者は、査読委員の候補を3名まで提案することができる(投稿カードに記入)。ただし、その3名の中から査読委員が選定されるとは限らない。
- (5) 依頼原稿は担当編集委員が審査し、正または副委員長が採否を決定する。
- (6) 判定が採用(要微修正)の場合、著者は修正原稿を編集委員会に2週間以内を目処に提出する。担当編集委員が修正内容を検査し、すべてを承認した時点で正式採用となる。修正が不十分な場合には、著者に再修正を求めることがある。正式採用の日をもって、掲載決定日とする。
- (7) 大幅な修正を必要とする論文に対しては採用(ただし条件付き)とし、3ヶ月以内に改定稿の提出を求め、これについて審査を行う(再審査)。再審査は、原論文と同じ担当編集委員と査読委員(ただし、不採用判定の査読委員を除く)が、原論文に対する審査意見への充足度を主観点に実施する。判定は採用(無修正、要微修正)と不採用のみとし、二度目の「採用(ただし条件付き)」はない。なお、著者が原論文とは別の担当編集委員、査読委員による審査を希望する場合に

は、新規投稿論文として扱う。

- (8) 審査結果に異議がある場合は、一度に限り、編集委員会に理由を添えて再審査を請求できる。編集委員会が再審査の必要性を認めた場合に限り、新たな1名以上の査読委員による意見を加えて再度審議する。再審査の判定は採用(無修正、要微修正)または不採用とし、これに対する異議は受け付けない。
- (9) I、IIなどのように分割して投稿された原稿、あるいは以前に投稿され審査中の論文の続編に位置付けられる原稿であって、別の原稿の掲載を前提としている場合、これらの原稿の採否判定は一体化して行う場合がある。
- (10) 正当な理由なく提出中の原稿を取り下げることができない。特に、掲載可と判断された原稿について、やむを得ず原稿の取り下げや内容の変更が必要な場合は、全著者の同意書を添えて、理由書を編集委員会に提出し、承諾を得なければならない。
- (11) 原稿の審査が終了し、その掲載が許可された場合、最終原稿のWordファイルと印字確認のためのPDFファイルを提出すること。

#### 5. 著者校正

著者校正は1回行われるので、校正済みのゲラは速やかに対応すること。なお、校正では、図表の挿入位置や印刷上の誤りのみ修正可能であり、これを超える修正の必要が生じた場合は編集委員会に理由を添えて相談すること。

#### 6. その他

##### (1) 費用

##### 1) 掲載料

投稿原稿の掲載料は、表2に定める通りとする。ただし、刷り上がり2ページ以内の投稿原稿(研究論文と自主投稿による総説を除く)については無料とする。



図1 投稿論文審査手順

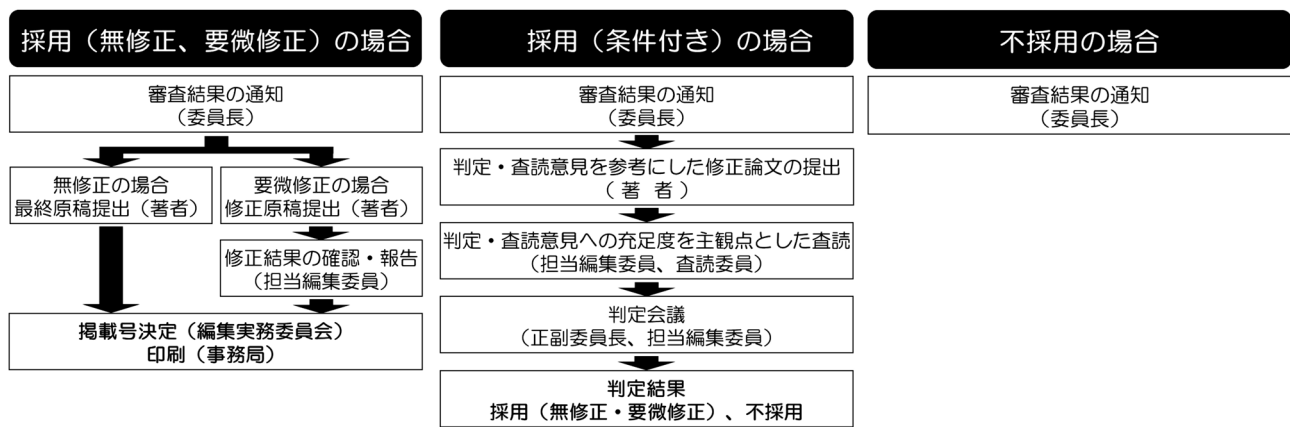


図2 審査判定後の手順

表2 掲載料金価格表

ページ数	掲載料
6ページ以下	36,000円
7	42,000円
8	48,000円

なお、8ページ超の掲載料は以下の計算式により算出する。ここで、nは8ページからの超過ページ数である。

$$\text{掲載料 (円)} = 48,000 + 6,000 \times n + 500 \times n \times (n + 1)$$

2) 英文校閲費用

掲載が決定した和文原稿の英文要旨の校閲は編集事務局において実施するので、費用は発生しない(掲載料に含まれる)。なお、著者は校閲の結果に基づいて英文要旨を修正すること。要旨以外の英文(図表など)と英文原稿については、すべて著者の責任において英文校閲を行うこと。

3) 別刷り

執筆者は表3の料金により別刷りを購入できる。

表3 別刷り料金表

区分	50部	追加50部ごと
刷り上がり8ページ以下	12,000円	3,000円増し
刷り上がり9ページ以上	15,000円	3,000円増し

(2) 原稿料

依頼原稿(解説および入門講座)については、所定の原稿料を支払うこととする。また、学会賞受賞総説原稿については記念品(図書券)を進呈する。

(3) 雑誌発行後の正誤訂正

- 1) 印刷上の誤りについては、著者の申し出があった場合はこれを掲載する。
- 2) 印刷上の誤り以外の訂正、追加などは、原則として取り扱わない。ただし、著者の申し出があり、編集委

員会がそれを適当と認めた場合はこれを掲載する。

7. 投稿に関する問合せ先

大気環境学会誌 編集事務局

メールアドレス: jsae-edit@bunken.co.jp

〒162-0801 東京都新宿区山吹町332-6 パブリッシングセンター(株)国際文献社内

電話 03-6824-9363 FAX 03-5206-5332

8. 著作権ポリシー(平成28年2月5日決定。原文は本会ホームページに掲載)

- (1) 大気環境学会誌及び大気環境学会年会講演要旨集の著作権は、大気環境学会<sup>\*1,2</sup>に帰属する。

※1「大気環境学会誌」投稿規程1. 総則(2)「本誌に掲載された記事の著作権は公益社団法人大気環境学会に帰属する。」

※2「大気環境学会年会のお知らせ」及び「大気環境学会年会講演要旨集」に記載「著作権について:大気環境学会年会講演要旨集に掲載された講演要旨の著作権は、(公社)大気環境学会著作権ポリシーに基づき、公益社団法人大気環境学会に属します。」

- (2) 著作権本人のインターネットでの記事および講演要旨の公開を認める。公開条件として、権利表示、出典表示を行うこととする。

公開対象は、以下通りとする。

- 1) 著作者本人のWebサイト
- 2) 著作者の所属機関のWebサイト
- 3) 著作者が参加した研究プロジェクトのWebサイト

- (3) 公開形態は、出版社版<sup>※</sup>とし、著者最終稿や査読前原稿の公開は認めない。

※出版社版の定義

- ・抜刷(紙媒体)をスキャンしたもの。
- ・J-STAGEなどで公開されている論文の電子ファイルのコピー。

(4) これらの方針は、学会投稿規程等において公開する。

※複写・転載のルール

複写・転載について、以下のルールにしたがって運用する。

		ルール	備考
複写		学術著作権協会の許諾が必要	
転載 (全部)	著者が同一	著作権ポリシーに従う	
	著者が異なる	著作権ポリシーに従う(ただし、公開対象は除く)。学会誌編集委員会と著作者の了解が必要。	規定には明記せず、申し出があった場合のみ個別に対応する。
転載 (一部)	著者が同一	転載であることが明らかに分かるような情報を入れる。原版と異なる数値への改変はしない。	
	著者が異なる		

# 「大気環境学会誌」投稿の手引

2021年1月10日

## 1. はじめに

この「投稿の手引」は、「大気環境学会誌投稿規程」より論文などの投稿にあたり原稿執筆の際に従うべき必要最小限の約束が記されている。これに従わない原稿は受け付けられない場合があるので注意すること。

- (1) 投稿する論文は、大気環境に関連した諸分野の独創的な研究で、価値ある事実または結論を含み、投稿規程に示された条件を満たしたものでなければならない。
- (2) 主著者は本会会員に限る。共著者は論文の完成に意義ある貢献を果たし、論文内容に共同の責任を負える者であり、またその範囲に限られる。
- (3) ほぼ同一の内容からなる論文原稿を複数の研究誌に投稿（二重投稿）してはならない。ただし、二重投稿か否かの判断がつかない場合は、事前に編集委員会の判断を仰ぐこと。
- (4) 論文は、その研究を他者が再現したり検証・評価したりするために必要な情報の出所、および論証の過程を明らかにしなければならない。
- (5) 引用した情報は、読者が入手可能なものでなければならない。
- (6) 投稿原稿には捏造、改ざん、あるいは他者の論文から盗用した情報が含まれてはならない。
- (7) 投稿原稿の内容が倫理的配慮を必要とする場合は、必ず「方法」の項に倫理的配慮や研究対象者への配慮をどのように行ったかを記載すること。なお、ヒトを対象にした研究では、ヘルシンキ宣言ならびに文部科学省・厚生労働省「疫学研究に関する倫理指針」あるいはほかの適切な指針に従うこと。動物を対象にした研究では、実験が実施された組織における実験動物に係わるガイドラインに則した研究であることが求められる。倫理審査委員会の承認を得て実施した研究は、承認した倫理審査委員会の名称および承認年月日を本文中（方法）に記載する。また、利益相反がある場合は、投稿カードに必要な項目を記載する。

## 2. 投稿原稿の書き方

- (1) すべての投稿原稿は、この「投稿の手引」を参照して作成すること。
- (2) 速報として掲載を希望する場合は理由書（400字以内）を同時に提出する。
- (3) 論文は、読みやすく筋の通った簡潔な文章体とし、原則として常用漢字と現代仮名遣いを用いる。副詞、代名詞、接続詞はなるべくかなで書き、助動詞と助詞はかなで書く。
- (4) 投稿原稿はワードプロセッサで作成し、原則として

電子ファイルはMS-Word (ver. 97以降) およびそのPDFとする。他のソフトを使用する場合は、投稿時にソフト名およびバージョンを明記すること。なお、いずれの場合も印刷およびテキストのコピーが可能な形式で保存し提出すること。

## 3. 投稿原稿の構成

- (1) 投稿原稿は、以下の順とすること。
  - 1) 表紙（論文種別、論文題目、著者名、所属）
  - 2) 和文要旨
  - 3) 本文（謝辞、引用文献含む）
  - 4) 英文要旨・英語キーワード
  - 5) 図および図題（写真も含む）
  - 6) 表および表題
  - 7) 電子付録
- (2) 関連ある幾つかの論文を同じ題名で発表する場合は、題名にローマ数字I、II、IIIで番号をつける。なお、その題名は途中で変更しないこと。また、これには副題を付しても良い。
- (3) 著者が複数の場合には著者名、所属機関名にそれぞれ、○○○○<sup>1</sup>、○○○○<sup>2</sup>のようにして記す。
- (4) 図、表、写真の挿入場所は、本文欄外においてテキストボックスを用いて指定する。指定のない場合、レイアウトは編集委員会に一任となる。なお、図表の位置変更は著者校正時に受け付ける。

## 4. 投稿カード

投稿カードは本会ホームページから最新のものをダウンロードして作成する。

## 5. 原稿作成の注意事項

- (1) 所定のテンプレートを本会ホームページからダウンロードして作成する。
- (2) 英数字と単位のフォントは「Times New Roman」とし、その他は「MS明朝」とする。フォントサイズはどちらも11ポイントを用いる。なお、所定のテンプレートに従えばその書式となる。
- (3) 句読点、カッコは1字に数え、原稿の書き始めおよび段落を改めた時の書き始めは1字あける。本文中の句点は「。」、読点は「、」を使用する。
- (4) 半角のカッコを使用する際は、「括弧開き“(”の前」と「括弧閉じ”)”の後」にそれぞれ半角スペースを入れる。角かっこ“[ ]”についても同様とする。
- (5) ローマ字は半角活字体で書き、専門用語は学会や文部科学省で制定されたもの（例えば、学術用語集化学篇

など)によること。外国の人名、会社名などはローマ字で書くことを原則とする。ただし、周知の術語はカタカナ書きとする。本文中で引用する人名には謝辞を除き敬称はつけない。

- (6) 和文要旨は、本文の内容の学術的要点を伝えるためのものであり、本文の内容を忠実かつできるだけ具体的に書くこと。
- (7) 本文中の見出しは、1. 緒言、2. 実験、3. 結果、4. 考察などとし、中見出しは“1.1、1.2、…”、小見出しは“1.1.1、1.1.2、…”などとポイントシステムで書く。
- (8) 英文要旨は文献検索システムの英文データベースに入力されることを勘案し、本文の内容を原文で入手できない読者にもその学術的価値を判断できるように、研究のスキーム、結論を明確、具体的かつ簡潔にまとめること。また、英文要旨は、本文とは独立に理解できることが必要であるから、日本語で定義した記号、略語などは必ず英文で定義し、本文中の図、表、式などを引用しないこと。
- (9) キーワードは6個以内とし、英語で英文要旨の下段に書く。キーワードは論文内容の検索が正しく行える用語を使用すること。

## 6. 依頼原稿

- (1) 大気環境学会受賞者の総説、解説、入門講座は、編集委員会からの依頼を原則とする。
- (2) 依頼原稿の提出方法は投稿原稿と同様とする。
- (3) 依頼原稿の執筆要領は、投稿原稿と同様とする。
- (4) 依頼原稿についても査読委員の指摘事項を踏まえて適宜修正した最終原稿を編集委員会に提出する。

## 7. 図・表・写真

- (1) 一般的注意事項
  - 1) 図と表は重複を避け、必要最小限に留めること。
  - 2) 図、表、写真の表題および説明文は、原則として英文(フォントはTimes New Roman)で書く。
  - 3) 表題には通し番号をつけ、Fig. 1やTable 1などのように書く。本文中で引用する場合にもこの表現を使って「下図」、「この表」などは用いない。
  - 4) 図中のフォントはMSゴシック、表中のフォントは本文と同様に日本語: MS明朝、英語: Times New Romanとする。
  - 5) 図表や写真を原著からそのまま転載する場合は、それらの出典を明記し、必要に応じて著作権所有者の承認を得ておくこと。
- (2) 図
  - 1) 原稿1ページに1つの図を貼り付け、図の下部に図番号および図題を記載する。
  - 2) 縦軸の説明は下から上へ、横軸の説明は左から右

へ、それぞれ軸の中央に書くこと。

- 3) 図は刷り上がり時の大きさを加味して作成すること。この場合、線の太さ、フォントサイズ、文字と図のバランスなどを考慮すること。
- 4) 図表の全段印刷を希望する場合には、図表題の後にカッコ書きで「全段希望」と記載する。  
例: Fig. 1 Outline of Taiki Kankyo (全段希望)
- 5) 線の太さは1.0ポイント以上にすること。これより細い場合には校正時に見えていても、印刷時に消えてしまうことがあるので注意する。
- 6) 図が不鮮明である場合には作り直しを求めることがある。

### (3) 表

- 1) 原稿1ページに1つの表を貼り付け、表の上部に表番号および表題を記載する。
- 2) 表題はできるだけ簡潔にすること。表中の長い語句は略号などで置き換えてもかまわない。表題や表中の略号の説明は、\*や\*…などの註の印を上付きでつけて表の下部に記す。
- 3) 数字は可能な限り小数点の位置でそろえ、縦に同様な数字がたくさん並ぶ時には、5行ごとにスペース行をとること。
- 4) 表には枠線は可能な限り用いない。

### (4) 写真

- 1) 原稿1ページに一つの写真を貼り付け、写真の下部に番号および題を記載する。  
例: Photo 1 Outline of Taiki Kankyo

## 8. 単位・記号

本誌の扱う学問分野は、理学、工学、農学、薬学、医学、気象学などの広い分野にわたるので、論文で用いる単位・記号の形式について厳密な規定はしない。しかし、以下に示す最小限の基準は設けることとする。投稿者はこれに従って原稿を作成すること。原稿審査の際に査読委員または編集委員から単位・記号に関する指示がある場合にはこれに従うものとする。

- (1) 原則として、表1に示すSI単位を用いる。SI単位を用いる時は定義を示す必要はない。この用法については、JISZ8203「国際単位系(SI)およびその使い方」を参照すること。
- (2) 表2に示す非SI単位についても定義を省略することができる。それ以外の単位を用いる場合は、例に示すように定義を明示する。  
例:  $165 \text{ ft}^3$  ( $1 \text{ ft}^3 = 28.3 \text{ dm}^3$ )  
 $5350 \text{ BTU}$  ( $1 \text{ BTU} = 1055 \text{ J}$ )
- (3) 百万分率(ppm)は、体積比か重量比かを区別し、それぞれppm (v/v)もしくはppmv, ppm (w/w)もしくはppmwと論文の最初の箇所を示しておく。それ以降はppmとしてもかまわない。ppbやpptの場合も同様で

ある。

- (4) マイクロメートルやマイクログラムなどのマイクロには半角のμを使用し、それぞれ、μm、μgなどと表記する。
- (5) 物理量の記号は、なるべく慣用のものを用いる。慣用のものであっても論文の最初の箇所では定義を必要とする。
- (6) 数値と単位の間には半角スペースを挿入する。例外として“%”、“°”、“℃”の場合はスペースを挿入しない。
- (7) 除算を含む単位は、斜線(m/s、g/m<sup>3</sup>など)または指数(m s<sup>-1</sup>、g m<sup>-3</sup>など)のどちらかに統一すること。図中についても同様である。

## 9. 数式

- (1) 数学的操作を表す記号は、次のようにする。  
exp(-x)、e<sup>-x</sup>、logx、lnx、Δx、δx、dx、f(x)  
df(x)/d(x)、sinx、cos<sup>-1</sup>x、∂/∂γ、gradΦ、divA
- (2) 原則として、物理定数や変数は斜体で、定数や演算記号はローマン体(立体)で表す。
- (3) 文中に式を挿入するときは、a/b、exp(-U/kT)のよう  
に書く。
- (4) 独立した数式は、本文中のフォントサイズと同程度の  
大きさと明瞭に書く。式の上には1行分のスペース  
を取り、式番号を(1)のようにつける。本文中では、  
図表と同様にEq. 1のように引用する。

$$C = \frac{Q}{2\pi\sigma_y\sigma_z U} \exp\left(-\frac{y^2}{2\sigma_y^2}\right) \left\{ \exp\left(-\frac{(z-H)^2}{2\sigma_z^2}\right) + \exp\left(-\frac{(z+H)^2}{2\sigma_z^2}\right) \right\} \quad (1)$$

## 10. 化合物名・化学式

- (1) 本文中では化学式を使わないで化合物名で書く。化合物名の名称は原則として、IUPAC命名法に従い日本語名で書く。論文を簡潔に読みやすくするため、紛らわしくない場合には、元素は記号で、簡単な無機化合物は化学式で表しても良い。ただし、イオンの電荷はFe<sup>3+</sup>、SO<sub>4</sub><sup>2-</sup>のように表示し、Fe<sup>+++</sup>、SO<sub>4</sub><sup>-</sup>、SO<sub>4</sub><sup>-2</sup>とはしない。
- (2) 化合物を略記号で表す場合、本文で最初に述べる際に正式の化合物名にカッコをつけて略記号を付記すること。  
例：ベンゾ[a]ピレン(以下、BaP)
- (3) 化学反応式は、「本投稿の手引9. 数式」に準じる。  
例：NO<sub>2</sub>+hv → NO+O (1)  
O+O<sub>2</sub>+M → O<sub>3</sub>+M (2)
- (4) 元素記号を表す記号は全てローマン体(立体)とする。  
例：PO<sub>4</sub><sup>3-</sup>、C<sub>2</sub>H<sub>6</sub>、(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>NH
- (5) NO<sub>x</sub>の<sub>x</sub>は、小文字xを下付きにすること。ほかの類似のケースも同様とする。
- (6) PM<sub>2.5</sub>の2.5は下付きとすること。他の類似のケースも同様とする。
- (7) O<sub>x</sub>などは、xが原子の個数を示す場合は“O<sub>x</sub>(下付

表1 利用すべきSI基本単位

物理量	単位	記号	物理量	単位	記号	物理量	単位	記号
長さ	メートル	m	物質量	モル	mol	磁束密度	テスラ	T
質量	キログラム	kg	電流	アンペア	A	インダクタンス	ヘンリー	H
時間	秒	s	電気量	クーロン	C	束	ルーメン	lm
力	ニュートン	N	仕事率、電力	ワット	W	光度	カンデラ	cd
圧力、応力	パスカル	Pa	電圧、電位	ボルト	V	照度	ルクス	lx
エネルギー	ジュール	J	電気抵抗	オーム	Ω	放射能	ベクレル	Bq
周波数	ヘルツ	Hz	コンダクタンス	ジーメンズ	S	吸収線量	グレイ	Gy
熱力学温度	ケルビン	K	磁束	ウエーバー	W	線量	シーベルト	Sv

表2 SI単位系以外の許容単位

物理量	単位	記号	物理量	単位	記号	物理量	単位	記号
質量	トン	t	平面角	度	°	圧力	トル	Torr
時間	分	min	平面角	分	'	エネルギー	熱化学カロリー	Cal
時間	時	h	平面角	秒	"	エネルギー	電子ボルト	eV
時間	日	d	体積	リットル	L	磁束密度	ガウス	G
温度	セルシウス度	℃	圧力	気圧	atm	モル濃度	モーラー	M

き、斜体)”とし、Oxidantの略称として用いる場合は“Ox”とする。

## 11. 引用文献・脚注

(1) 引用文献の表示方法は下記のとおりとする。

- 本文中での引用は、「該当人名に(年号)」、あるいは、「事項に(人名、年号)」をつけて引用する。なお、人名と年号の間は点「、」ではなく、カンマ「,」を用いる。

例: Bladley (1995)、藤井(2004)

「…を報告している(Bladley, 1995)」、「…を明らかにした(藤井, 2004)。」

- 該当人名が2名の場合および3名以上の場合には次の例のように記述する。

2名の場合: Bladley and Young (1995)、藤井と飯田(2004)

3名以上の場合: Bladley et al. (1995)、藤井ら(2004)

- 引用文献は、下記に示す例のように書き、第一著者の頭文字のアルファベット順に記載する。和文文献も、対応するローマ字によって英文文献と区別せずに、アルファベット順に記載する。

- 同一著者で同一年号の場合には年号の後に、a、b、cのように小文字のアルファベットを順番につける。

- 英文タイトルのある和文文献については、なるべく英文で記し、末尾に[in Japanese]とする。

- ウェブサイトを引用する場合、本文中にはサイトの管理者および開設日、掲載日、更新日などの日付のうち最新の年を表示することとし、日付が特定できない資料は引用不可とする。また、引用できるウェブサイトは原則として、公的機関による公開資料やデータダウンロード元とする。

【学術雑誌掲載論文】著者名: 題名, 雑誌名, 巻, ページ(出版年).

(例) Bladley, Y. A.: Carcinogenicity of ..., *J. Atmos. Environ.*, **85**, 156–161 (1995a).

Bladley, Y. A.: Epidemiology of ..., *Asian J. Atmos. Environ.*, **12**, 82–87 (1995b).

藤井 正, 飯田一郎: 植物の成長に与える大気汚染の影響, *環境学会誌*, **76**, 38–45 (2004).

Kono, O., Heikawa, K., Suzuki, K.: Diffusion of air pollutants, *J. Jpn. Soc. Environ.*, **31**, 95–100 (1996) [in Japanese].

【単行本】著者: 書名, ページ, 出版社名, 出版地(出版年).

(例) Lunau, F., Reynolds, G. L.: *Indoor Air Quality and Ventilation*, pp. 122–126, Selper Ltd., London (1990).

【単行本掲載論文】著者名: 題名, (書名, 編者名, 総ページ数, 出版社名, 出版地), ページ(出版年).

(例) Holst, P. A. J.: Bioaerosol related health effects of indoor air (*Indoor Air Quality and Ventilation*, Lunau, F., Reynolds, G. P. ed., 470, Selper Ltd., London), pp. 331–338 (1990).

【ウェブサイト】発信者名: 題名(開設日等の年), ウェブアドレス(最終アクセス日)

(例) 大気環境学会: 環境基準の改訂について(2010), <http://www.jsae-net.org/> (2011. 7. 25アクセス)

- 欧米雑誌名は、国際的な慣用に従ってピリオドを用いて略記すること。「大気環境学会誌」の場合には、「大気環境学会誌」と書き「本誌」としない。

- 著者名は全員を記載し、原則としてet al. としない。

- 印刷中の論文を引用する場合は、著者名、題名、投稿誌名をつけ、末尾に「印刷中」と記す。投稿中を含む未発表の論文や私信は引用文献とせず、文中にて( ) つきで記す。

(例) (Sato, I., *Atmos. Environ.*, 投稿中)、(佐藤, 私信, 2009)

- 脚注が必要な場合は、本文に<sup>註1</sup>、<sup>註2</sup>のように通し番号で示し、本文の最後にまとめて記載する。

## 12. 付録・電子付録

- 付録

本文への記載が冗長となる事項(記号の定義、数式の導出、装置の説明など)は、付録とすることができる。付録は、投稿原稿においては引用文献リストに続いて記載する。この付録は審査の対象であり、著作権の扱いは本文同様である。

- 電子付録

画像、映像、ソースコード、ソフトウェア、データなどは、電子付録とすることができる。電子付録は、投稿原稿とともに提出する。ただし電子付録は審査の対象外であり、著作権は著者に帰属する。その論文等に別段の記載がある場合を除き、電子付録の利用者は、その全部又は一部を複製し、利用することができる。

以上